

## 足立参院議員が被災地調査

足立敏之参院議員は9日、5日に発生した石川県の能登半島を震源とする地震の被災地に入り、震度6強を観測した珠洲市の被害状況を調査した。市内の限られたエリアで多くの住家被害が確認され



泉谷珠洲市長（中央）の案内で被災した住家を視察する足立参院議員

### 5日の能登半島地震 被害は極めて局所的

た一方、道路を含む交通インフラの被害は能登半島全体で一部にとどまったことから、「被害は極めて局所的」と受け止めた。

泉谷満寿裕市長の案内を受けて現地調査した。石川県建設業協会の平櫻保会長と中市勝也副会長、珠洲建設業協会の明星加守暢会長、県珠洲土木事務所の奥村琢実所長が同行した。

消防庁のまとめによると、10日午前8時30分現在の住家被害は、全壊9棟、半壊9棟、一部破損452棟。このうち、全壊と半壊の全棟、一部破損の450棟が珠洲市内だった。調査では、揺れで1階部分がつぶれた建物や、斜面崩壊に巻き込まれた住家などを確認した。

一方の交通インフラは、落石の恐れがあるとして海岸沿いを走る国道249号の一部区間が通行止めになっていたものの、能登半島を縦貫する県道57号珠洲道路は通行が確保されていたとして、「今回の地震は建物被害が中心。インフラ被害は比較的小さく、インフラは機能を維持できていた」と総括した。

インフラが機能を維持できた要因としては、県が進めてきた高い規格での道路整備が奏功し、防災・減災、国土強靱化の事業も効果を発揮したとの見方を示した。

地域の守り手として地元建設業者が災害対応する様子も視察し、「重機を持ち、災害対応のノウハウも有し、地域を守るといふ気構えがある地域建設業が、地域に居続けられるようにすることが大事だと改めて感じた」と話した。